

J-1 海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ

セッションの趣旨

国際共同研究の強化・促進は多くの大学が共通して抱える課題とされている。近年では研究者がそのキャリアの早期の段階で国際的な環境での研究活動を経験し、ネットワークを育むことが重要であるという認識が高まっており、URAにはその支援の仕組みをより強化することがますます求められている。

そこで本セッションでは、研究の国際化支援や若手研究者の育成を担当するURAを主な対象に、国際的なファンディング機関、若手研究者、ほか若手研究者の国際的な活動を支援する関係団体を交えて取り組み事例や課題を共有・議論してゆくことにより、URAが今後、多様な支援モデルを展開してゆく契機としたい。



Organized by  members & partners

「Serendipity Initiative Promoting HFSP-mindset by AMED (SIPHA)」においては、HFSPの実際の成功例を挙げながら、特に若手研究者のマインドセットを国際的・学際的な方向へとさらに後押しして行く活動を進めるために、2019年に設立された研究者・研究支援者（URA）並びに海外ファンド関係機関のスタッフによるグループです。

J-1 海外ファンドを活用した若手研究者の国際化支援を学ぶ

□ セッションの流れ

司会・オーガナイザー：松岡 信也（京都大学学術研究支援室）

10:30-10:35 開会の挨拶・講師紹介

松岡 信也（京都大学 学術研究支援室 シニアURA）

10:35-10:45 URAによる海外ファンド支援

鈴木 環（京都大学 学術研究支援室 URA）

10:45-10:55 海外グラントとHFSP

古川 修平（日本医療研究開発機構 国際戦略推進部 主幹）

10:55-11:10 Sipaについて

足立 剛也（国際HFSP推進機構 Scientific Officer）

11:10-11:20 若手研究者経験談①：HFSPを用いたスイス留学・帰国後の研究立ち上げの事例

小嶋 良輔（東京大学 大学院 医学系研究科 助教）

11:20-11:30 若手研究者経験談②：若手研究者が国際的ファンドに応募した理由 応募しなかった理由

佐田 亜衣子（熊本大学 国際先端医学研究機構 特任准教授）

11:30-12:00 パネルディスカッション

講師5名（鈴木、古川、足立、小嶋、佐田）

クスタース ハロルド（九州大学 研究・産学官連携推進部グラントサポート室 室長）

小泉 周（自然科学研究機構 研究力強化推進本部 統括URA）

URAによる海外ファンド支援

鈴木 環

(京都大学 学術研究支援室 URA、年次大会実行委員)

□ 様々な海外ファンドの可能性



□ 日本と海外のファンド機関との共同事業（共通の課題解決が目標）

- ・ JSPS（二国間交流事業）－ DAAD（ドイツ学術交流会）など
- ・ JST（SICORP）－ DFG（ドイツ研究振興協会） / ANR（フランス国立研究機構）等
- ・ JST / 総務省 など－ Horizon 2020/Europe（汎EU諸国）
- ・ JST- E-ASIA（汎アジア地域）
- ・ JICA－ AMED / JST地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）

□ 優秀な若手研究者の海外での活躍機会 ⇔ 誘致 促進

- ・ 日本： JSPS 海外特別研究員制度
- ・ ドイツ： フンボルト財団フェローシップ
- ・ 米国NIH フェローシップ
- ・ 国際HFSP機構 フェローシップ
- など

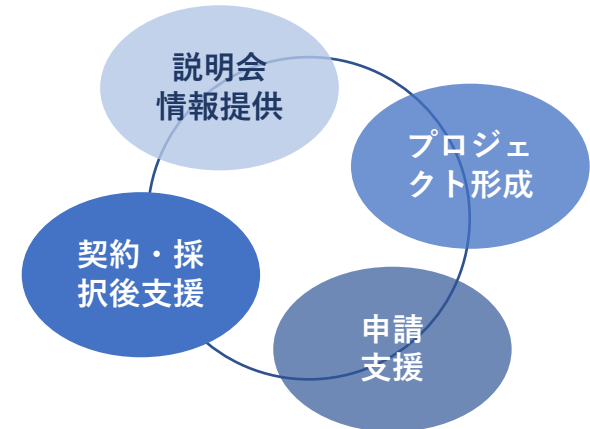
URAによる海外ファンド支援

RA協議会 第6回年次大会 2020.9.17

□ 国際的なファンド獲得推進に関するURAの取り組み

○ 海外ファンド機関と連携した研究者への情報提供、説明会、申請支援

例) EU – Horizon 2020 / Europe, ERC、Erasmus+プログラム
DAAD、DFG、HFSPなど国際的なファンドプログラム
JSPS / JST SICORP/ JICA 等、日本のF/A機関によるプログラム



京都大学の例 (HFSP)

東京工業大学 + 自然科学研究機構の例

九州大学の例

京都大学 Kyoto University Academic Service

研究支援情報

D-18 Events and Seminars

イベント案内

国際・学際的研究のフロンティアへの挑戦

HFSPを中心とした海外グラント・フェロウシップ獲得のノウハウを学ぶ

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) 推進機構および日本医道研究開発機構 (AMED) と連携し、自然科学研究機構を中心とした国際的・学際的なファンドプログラムへ挑戦するののセミナーを開催します。

第一部は、HFSP研究グラントを獲得し国際的に活躍する研究者から、チーム形成からプロジェクトマネジメントに至る経験をお話いただき、第二部は、海外派遣フェロウシップの活用やポスドク留学など若手研究者が国際的に活躍するためのノウハウについて紹介・議論します。

日程 2019年12月9日[月] 13:30～17:00 [開場13:00]

場所 京都大学 基礎医学記念講堂・医学部資料館

対象 京都大学所属の研究者・学生

申込 <https://www.kyoto-u.ac.jp/event/177>

プログラム [第一部・第二部にグラント採択者等によるディスカッションおよび質疑応答を予定しています。]

第一部 13:30～15:10
HFSPをはじめとする国際・学際研究グラントへの挑戦
・AMEDの国際プログラムとHFSPについて
・HFSP 日本医道研究開発機構 (AMED) 採択事例
・HFSPグラント採択者による中国・研究経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者による海外研究経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者によるポスドク留学経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者による海外研究経験談

第二部 15:30～17:00
HFSPをはじめとする国際・学際研究グラントへの挑戦
・AMEDの国際プログラムとHFSPについて
・HFSP 日本医道研究開発機構 (AMED) 採択事例
・HFSPグラント採択者による中国・研究経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者による海外研究経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者によるポスドク留学経験談
・海外派遣フェロウシップ採択者による海外研究経験談

主催 学術研究支援室 (DRA)

協力 国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) 推進機構 日本医道研究開発機構 (AMED)

問い合わせ 学術研究支援室 HFSPセミナー2019事務局 担当: 鈴木、松岡、西田 1内線: 50-504 / 10-504@kyoto-u.ac.jp

Join Japan-EU Collaboration, Find the Frontiers of Knowledge

Enhancing EU-Japan Research Cooperation on the Frontiers of Knowledge

ヨーロッパとの国際共同研究に関する各種財団による助成プログラム説明会 (ERC, DFG, DAADおよびJSPS, JST) ~欧州研究会議 (ERC) 議長 Prof. Jean-Pierre BOURGUIGNON 来日

日付: 2019年6月5日
時間: 13:30～18:00
※その後、Networking reception (懇親会、free drink, free food)

場所: 東京工業大学 東工大蔵前会館くらまホール (東急線 大岡山駅前)

参加費: 無料

対象:
・EUとの国際共同研究をお考えの研究者 (若手研究者)
・EUでの研究を考えている大学院生や留学生
・研究または国際連携担当URA など

主催: ERC/EU、東京工業大学
共催: JSPS および JST
協力: 自然科学研究機構

参加申し込み <https://forms.gle/6VdhtnDV82tB2Jf37>

Agenda
13:30-13:45 Opening Remarks
13:45-14:15 Professor Jean-Pierre Bourguignon, President of European Research Council (including Q&A Session)
14:15-14:30 the Delegation of the European Union to Japan
14:30-14:45 Japanese ERC grantee Naoko Mizuno (TBC)
14:45-15:00 the Japan Society for the Promotion of Science to support EU-Japan Research Cooperation, including the collaboration with ERC
15:00-15:10 the Japan Science and Technology Agency on collaboration with ERC
15:10-15:25 a JSPS fellow visiting an ERC team (TBC)
15:25-15:45 Q&A Session
15:45-15:55 Break
15:55-16:55 Programmes to support EU-Japan Research Cooperation:
- Japan Science and Technology Agency (JST)
- German Research Foundation (DFG)
- German Academic Exchange Service (DAAD)
- Other research funding agencies in Europe (TBC)
16:55-17:10 Impact of the ERC on researchers' careers, presentation on the results of a study by Dr. Theodore Papazoglou, Head of Unit, ERC Executive Agency
17:30-17:50 Roundtable discussion
17:50-18:00 Q&A Session
18:00-20:00 Closing remarks by Professor Jean-Pierre Bourguignon, President of ERC
Networking reception

国際研究につながる助成金についてのセミナー

【2019年11月5日(火)】

2019/09/25

■背景
研究のグローバル化の中では、日本と海外との共同研究の件数はまだ数少ない。そこで、国際的な研究、特に日本人研究者と外国人研究者間での研究を推進することを目的として、今回のセミナーを開催することにした。本セミナーの前半では、国際的な研究につながる日本政府の助成金について説明し、後半では、日本から応募できる海外グラントを紹介する。また、国内外グラントを獲得したことのある九大の研究者が成功事例について話していただくことにより、多くの方々の外部資金獲得の参考にしていただきたい。

■概要
【日時】 11月5日(火) 13:00-17:00 (ネットワーキング 17:00～19:00)
【場所】 九州大学伊都キャンパス ジョナサン・KS・チョイ 文化館
【アクセス&地図】 <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/ito> (75番)
【対象】 学内外の研究者、リサーチ・アドミニストレーター、事務職員など (100名)
【言語】 日本語及び英語
【プログラム】 詳細プログラムについて [ポスター](#) を参照してください

13:00 開会挨拶
13:10-15:00 セッション1: 国際研究につながる日本政府の国際共同研究事業の紹介
日本政府 (JSPS, JST, JICA) のファンディング制度が紹介され、九大の採択者の成功事例が紹介されます。
15:15-16:45 セッション2: 国際研究につながる海外の競争的研究資金の説明
Horizon Europe, Human Frontier Science Programが紹介され、九大の採択者の成功事例が紹介されます。
16:45 閉会挨拶
17:00-19:00 ネットワーキングセッション

【事前登録】
本セミナーの参加は無料ですが、以下のサイトで事前登録をお願いします。
<https://p.surveymonkey.com/r/XTDNH8T>

【主催】 九州大学 学術研究・産学官連携本部、国際部、研究・産学官連携推進部
【協力】 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)、駐日欧州連合代表部、日本医道研究開発機構 (AMED)
【後援(申請中)】 独立行政法人日本学術振興会 (JSPS)、独立行政法人国際協力機構 (JICA)

□ 研究の国際化および海外ファンドに関する、近年のRA協議会での取り組み

○ RA協議会第5回年次大会（2019、調布）

- ・「日本の大学・研究機関の国際化に向けたURAの役割」（西村 薫:東京工業大学）
海外からの優秀な研究者がより多く滞在したくなる大学等になるために 何をすべきか
- ・「ホライズン2020プログラムを用いた 日欧共同研究プロジェクト:ケーススタディー」（MatthieuPY: EURAXESS Japan）
国際共同研究や研究者交流の可能性を最大に広げるための知識
- ・参加者ネットワーキング「URA間の情報共有を考える」（岡野 恵子：横浜市立大学）
国際共同研究や海外の競争的資金に関する課題共有にむけて

○ RA協議会第4回年次大会（2018、神戸）

- ・「クロスカルチャー奮闘記 -簡単じゃない外国人研究者支援-」（藤松 佳晃: 沖縄科学技術大学院大学、他）
- ・「ワークショップで考えよう：欧州研究協力・交流助成企画で国際化達成」（Matthieu PY； EURAXESS Japan）
- ・参加者ネットワーキング「国際業務の機関を越えた協力について ~課題を共有しませんか?~」（池田泉、他: 東京大学）

○ RA協議会第3回年次大会（2017、徳島）

- ・「URA連携による国際共同研究促進」（三代川 典史:広島大学）
- ・「研究の国際展開と学内環境 —大学のグローバル化の中のURAの役割」（望月麻友美:大阪大学、西村 薫：東京大学）
- ・「欧州研究協力・交流企画の一から十まで」（MatthieuPY: EURAXESSJapan）

□ 研究の国際化および若手研究者の国際化に関する近年の議論

□ 認識される課題

文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官 国際戦略委員会
「第6期科学技術計画にむけた提言」(2019.6.21)

- ➡ 欧米・新興国における科学技術の国境を超えた展開
- ➡ 我が国における相対的な研究力低下、国際流動性の停滞
- ➡ 第6期科学技術基本計画(2021-25): **国際競争力の維持強化、国際社会における存在感発揮**

□ 重点取組・大学やファンド機関に期待される対応策

- ➡ **1. 国際共同研究の抜本的強化**
 - ・相手国政府機関と共同する国際共同予算の拡充、国内向けプログラムの国際化
- ➡ **2. グローバルに活躍する若手研究者の育成・確保**
 - ・若手研究者の海外研鑽機会
 - ・諸外国の優秀な研究者の招へい
 - ・海外に出て活動する研究者が、帰国後に円滑な研究を行うことができる環境整備
- ➡ **3. ファンディング機関、大学・研究機関の国際化、拠点形成**
 - ・ファンディング機関の国際活動のリソース強化、制度・運用の国際化
- ➡ **4. 「持続可能な開発目標」SDGs (Sustainable Development Goals) への貢献と STI for SDGs**
 - ・地球規模課題への対応と世界の持続的発展への主体的な貢献



大学(URA)、国際的なファンド機関が連携し、若手研究者の国際的な活動・活躍・キャリアアップを広く支える機運を高める

□ 研究の国際化および海外ファンドに関する、近年のRA協議会での取り組み

○ RA協議会第5回年次大会（2019、調布）

「海外ファンド機関とのパートナーシップによる若手研究者の国際化支援」（鈴木環、他：京都大学）

- ・ドイツ学術交流会(DAAD)の資金担当者を招き、京都大学とのマッチングファンドによる事例を報告
- ・「国連の持続可能な開発目標(SDGs)」達成を推進しようとする若手研究者の国際的なネットワーク構築を支援
- ・「早い段階からの支援が国際的な研究ネットワーク構築とその後のキャリア形成につながる」という共通認識





今回の年次大会で中心とするのは・・・

Human Frontier Science Program (HFSP)

- ・1987年のヴェネツィアサミットにおいて中曽根首相（当時）が提唱
- ・生体がもつ複雑なメカニズムを対象とする野心的な最先端の研究を推進
- ・ストラスブールに本部が設置
- ・文部科学省及び経済産業省が出資、日本医療研究開発機構（AMED）が推進
- ・グラント採択者から、28名のノーベル賞受賞者を輩出

運営支援国

MSPs(The Management Supporting Parties)

日本・カナダ・フランス・ドイツ・イタリア・英国
米国・スイス・EU・インド・オーストラリア・韓国
ニュージーランド・ノルウェー・シンガポール



① 研究グラント

- ・異なる専門知識を組み合わせた革新的アプローチによって基礎生物学上の問題に取り組むことを目指す
- ・研究費 最大45万ドル／3年
- ・2か国以上の研究者（2～4名）からなる国際共同研究

- a) **若手研究者グラント** 独立した研究室を与えられて5年以内の研究者で、博士号取得後10年以内の研究者のチーム
- b) **プログラムグラント** 独立した科学者のチーム、キャリア段階は問わない

② フェローシップ

- ・キャリアの初期にある科学者が、国外で新しい研究分野に移動し幅広い研究スキルを身につけることを支援
- ・博士号取得後3年以内の研究者を対象、3年間

- a) **長期フェローシップ** 生命科学分野で博士号を取得し、国外の研究室でより幅広い経験を積む
- b) **学際的フェローシップ** 生命科学以外の分野で博士号を取得し生命科学の分野で訓練を受ける

課題

日本が中心となりプログラム運営を行ってきたが、近年は採択数・応募数が減少傾向
研究のキャリアの早い段階で国際的・学際的なマインドセットを促すことが必要

2019年
発足

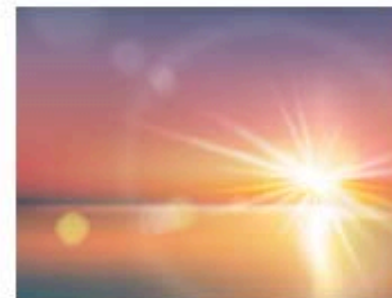
若手の国際・学際的研究へのマインドセットを推進するWG
Sipha : Serendipity Initiative promoting HFSP-mindset by AMED



International



Interdisciplinary



Frontier Science

本「Serendipity Initiative Promoting HFSP-mindset by AMED (SIPHA)」においては、HFSPの実際の成功例を挙げながら、特に若手研究者のマインドセットを国際的・学際的な方向へとさらに後押しして行く活動を進めます。

既存の枠組みとの連携の中で、アクティブなディスカッションを惹起するため、中心的役割となる研究者、研究支援者、すなわち「Champion Researcher」「Champion URA」等によって構成されるSteering Groupを設置し、そのメンバーが、ロールモデル、インフルエンサーとなって周囲に波及させることで相乗効果を図り、その結果として中長期的にHFSPの応募者や採択者が増加することも狙います。

Sipha

プロジェクト名の由来

Sipha (サイファ) はアラビア数字の「ゼロ」を表す cipher の頭を踏み、サイエンスの基盤となる研究者のマインドセットに焦点を当てることを暗示しています。また、ロゴの中心に位置する赤い丸は、活動を通じて「日はまた昇る」、日本のサイエンスが再び世界のトップレベルに返り咲くことを意図しています。

本セッションのねらい

論点

国際的なファンディング機関が研究機関に求めるもの、URAが果たすべき役割、若手研究者が必要とする支援ネットワーク等について議論